

たんぽぽ

NO.457

R7年9月1日

発行

〒869-1217

熊本県菊池郡

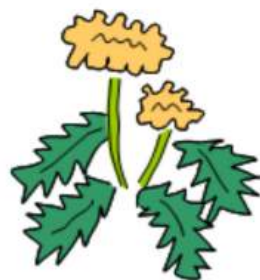
大津町森54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

☎096-293-8100



「芸術の秋」

施設長 木下 昭二

ひと月ほど前に熊本県内各地で発生した線状降水帯による豪雨災害によって、甚大な被害を受けられ、被災されたり、今なお避難生活を余儀なくされている皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、今なお復旧に努められておられる方々の一刻も早い現状の回復を願っております。今年も、今後訪れるであろう台風シーズンにおいても、事前の情報等に注視して、最小限の被害となるように努めていきたいと思っています。

9月に入っても一向に涼しくなる気配が感じられず、「芸術の秋」という表現が似つかわしくないと考える9月ではありますが、そのような中で、先日益城町文化会館で行われた、「ピアノの森コンサート2025 Summer」に行ってきました。今回のピアノコンサートは、TVアニメ

版「ピアノの森」で主人公のライバルでもあり、また友人でもある雨宮修平役の演奏を担当されていた高木竜馬氏が奏でられるシヨパン & 名曲の饗宴でした。

「ピアノの森」について少し触れると、一色まこと氏原作のアニメで、森に捨てられたピアノを弾いて育った少年が主人公で、貧しい環境に生きたがらも、元天才ピアニストの教師との出逢いを通じて才能を開花させ、世界的な「シヨパン・コンクール」に挑戦するというストーリーで、友情や師弟愛、音楽への情熱を描いた感動の物語として放送されました。そのアニメの中で弾かれていた曲を始め、所縁のある全14曲が演奏されました。オープニング曲は、何とシヨパンの曲ではなく、ベートーヴェンの「エリーゼのために」。この曲は、主人公に教師が音楽室でピアノを弾いて聴かせるシーンで使われました。どの曲もそうなのですが、演奏と共に

にその場面の映像が鮮明に思い起こされることに、「単に音楽」という器に収まらず、楽譜に込められた「凄さ」なのだと、改めて感じながら聴き入っていました。2曲目は「子犬のワルツ」、3曲目がアニメの第一シリーズのオープニング曲として用いられたシヨパン…練習曲第4番嬰ハ短調Op.10-4で、この曲はその後、物語の中の重要な場面で登場しています。本来ならば演奏された全曲に触れながら、未だ冷めやらぬ感動をお伝えしたいところですが、紙面の都合で割愛します。約2時間の演奏の中で、時に激しく、時に語り掛けるように、また優しく包み込まれるような数々の音符が紡ぎ奏でられ、何と贅沢で尚且つ至福の時なのだろうと思えました。終演後「いつまでもこの時が続けばいいのに…」と思うと同時に、「利用者さんにも聴かせてあげたい」という想いが募りました。利用者さ

んの特性上、「全員で…」というのは、厳しいかもしれませんが、色々な可能性を持ってもらえる利用者さんへの経験は、未知の才能を開花させることに繋がるのかもしれない…と思いました。最近ではその機会を提供することが出来ていないのですが、電子ピアノを弾ける利用者さんや、もつとずつと前の開設当初まで遡ると、今は他の施設に移られた路子さんは、一度耳で聞いた曲を覚え、完コピに近い状態で演奏されていた記憶が蘇ってきました。

以前にも書きましたが、利用者さんお一人おひとりが持つておられる可能性は、∞（無限大）ではないかと思っています。それにどう気付き引き出してあげられるのかは、私たち支援員にかかっています。

シヨパンが「楽譜に込めた想い」を想像しながら傾聴し、更けていく秋の夜長を楽しみたいと思います。





9月



『利用者さんの誕生日外出』

今年から担当をさせていただいているUさんの誕生日に、外出に行かせていただきました。場所はCoCo壱番屋に行きました。三気の里を出発した時はどこに行くのかと窓の外を何度も確認されていました。お店に到着すると、タブレットを一緒に見ながら注文をして、カツカレー、サラダセットに決められました。まだ来ないのかなとワクワクされていました。先に来たサラダセットをすぐ完食され、カレーも美味しそうにパクパクと食べられていました。食べ終わってから満腹になられたようで笑顔が見られ、三気の里に帰るまでニコニコと笑顔が見られていました。今年度から私ともイベントや外出に参加して、楽しい思い出をつくれるように努力していきたいと改めて感じました。

生活支援員 菅原 恵太

『個別外出』

今年度で、入社して4年目になります。担当2年目Tさんと三年目のKさんと個別外出で温泉と焼肉に行ってきました。昨年度も、同様の機会がありましたが、その時は慣れない場所ということもあってか、温泉では少し緊張されている様子でした。しかし、今回の外出では、リラックスした様子で、とても気持ちよさそうに入浴されていました。食事の焼肉では普段とは違った雰囲気と場所で最初は不安そうではありましたが、途中からはお肉やご飯を頬張り、とても美味しそうに食べられていました。

今回は、去年よりもTさんとKさんの笑顔が多く見られた外出になったなと思いました。TさんとKさんを始めとして、担当ではない利用者さんもしっかりと関わり深め、もっと笑顔を引き出せるような支援員になって行きたいと感じる外出でした。

生活支援員 白石 峻真

『3班の仕事を通して』

3班利用者さんは、毎日、野菜の袋詰めの仕事に取り組まれています。袋詰めを丁寧かつ正確にされているAさんとBさん。作業開始前は、お話をされていますが、いざ椅子に座って、沢山の野菜が入っている箱が目の前に来たら、黙々と自分の仕事に取り組むCさん。野菜の運び出しも、皆さん率先して行ってくださり、頼もしい限りです。ある日、製品の袋詰めも上手にできるDさんが、野菜の計りの工程をされていたが、Dさんの方から「私も玉葱の皮をむきますね！」と、元気よく言ってくださり、手伝ってくださいました。普段は、黙々と仕事に取り組まれているDさんだったので、私の忙しい雰囲気を察してか、自ら声をかけて手伝ってくださり、初めて「Dさんとの距離が縮まった」と感じ、凄く嬉しかったのを覚えています。これからも、利用者さんと私の心と心が繋がるよう、沢山、頑張りたいと思っています。

生活支援員 岩下 恵子

『平穏な日常のありがたさ』

8月、お盆を迎えようかという折、熊本県は記録的豪雨に見舞われました。

今回の豪雨で被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

私の住む八代市でも多くの人々が被災されました。我が家も玄関先まで水が迫りましたが、どうにか床上浸水は免れることができました。

三気の里4班においては、高齢で歩行困難な方もおられます。どのような言葉をかけ、どのようにスタッフ間で連携をとり介助すれば、誰一人残すことなく命を守られるのかと考えさせられました。

Kさんの「雨がひどかったですなぁ」という言葉を耳にし、利用者の方も自然の力を前にして、時に大きな試練に直面することが、改めて現実味を帯びて感じられました。

日頃から防災意識を高め、利用者の方々と日々の平穏に感謝しつつ、快適に暮らしていただけるよう、これからも仕事に励みたいと思います。

生活支援員 米田 真意子



大切な時間

Nさんは、アンパ利用からBeTREEの利用へと変更になって、5か月が経とうとしています。とても真面目で、仕事はどの作業も懸命に取り組まれます。そんなNさん、散歩中に必ず「今日頑張ったよ。」と伝えられます。スタッフが「うん、うん。」と頷くと、自ら「お給料もらってるから。」と嬉しそうに言われます。

散歩の時間に一日を振り返られることで、作業の達成感や自己肯定感を高められていることを感じます。また、歩いていると「うわ、畑の人参がなくなってる。」「風が気持ちいい〜。」など、体力づくりだけでなく、癒しの時間・リフレッシュの時間にもなっているようです。

Nさんにとって散歩とは、心と身体の両方の健康をサポートしてくれる大切な時間です。これからも大切な時間を大事にしていきたいです。

生活支援員 桝田 真知子



療育雑記

『ふたつめ』

主任生活支援員 友尻陽也

三気の里に入社し、生活支援員という仕事を始めて7年目になります。三気の里に入社する前は医療法人が経営する介護老人保健施設で支援相談員、医療機関で医療福祉相談員を計7年勤めていました。相談員はソーシャルワーカーといい、福祉や介護、医療、教育などの業界において、問題や悩みを抱えている人の支援や援助を行う職業のことをいいます。ソーシャルワーカーの基本的な姿勢としてバイステックの7原則があり、「個別化」「意図的な感情の表出」「統制された情緒的関与」「受容」「非審判的態度」「自己決定」「秘密保持」の7つからなります。

介護老人保健施設で支援相談員をしていた頃、熊本地震がありました。地震後は様々な事情

で施設に入らせて欲しいと言われる利用者さんがいました。そのような状況でもある為、断る事はせず短期入所・入所の調整をしていました。Aさんもその中の一人で、自宅での生活は危ない為、入所の希望を相談に求められました。手続きの段階ではAさんの別居の息子Bさんにも連絡して来てもらい、施設に入る為の施設の約款や費用の説明、書類の記入、面談を行いました。面談後にBさんが兄弟に電話している声が聞こえてきました。

「友尻の〇〇やろーが言いやがった」。私はびっくりして、Bさんに再度面談の依頼をしました。二度目の面談では、なにか困った事や不安なことはないかなどBさんについて尋ねると、一回目の面談では話されなかったBさんも被災しておりバタバタしていたこと、Aさんの年金では施設を利用する費用の支払いが難しく、兄弟で負担をしないといけないことなどを話されました。

た。私は困っている人を助けたヒーロー気取りになっていたのかもかもしれません。地震後という状況下、利用者さんや家族など一人ひとりの困りごとや悩み、不安、課題は違います。一回目の面談では、施設に入所をさせて欲しいと相談に来たAさんのことのみを考え、一方的に話をし、Bさんの気持ちを話しにくい雰囲気や状況を作ってしまったことに恥じらいを覚えませんでした。

バイステックの7原則の「意図的な感情の表出」とは感情を自由に表現できるように、援助者が意図的に働きかけること、利用者さんが自分の気持ちを自由に話せるように、安心できる雰囲気や支援者がつくることです。

三気の里の利用者さんの多くは社会性やコミュニケーションの難しさにより感情の表現が得意ではありません。支援者は利用者さんが感情を表現する（伝

える）ためにどうすれば良いのかを考えながら業務を行っています。自分の気持ちを言葉でうまく表現できない利用者さんには絵カードやジェスチャーを使って感情を伝える方法を練習します。日々の利用者さんの行動や表情、健康状態などの観察も大事です。感情の表現ができずにパニックを起こしそうな時、日々の観察により、違いに「気づき」、早めの対応ができると考えます。

今年度より、研修課の所属長を務めさせていただくことになりました。対人援助において「意図的な感情表出」の実践は簡単ではありません。まずは利用者さんの困っていることに「気づき」、担当だけではなくチームで考え、利用者さんが安心できる雰囲気を作っていききたいです。



業務課長便り

『「ありがとう」伝えられていますか?』

業務課長 本田 誠

今回はスタッフ教育について書きます。私が学生、新社会人であった20数年前、家庭、学校（特に部活）、会社における教育は厳しい上下関係がベースにありました。お礼を言われることなど殆どなく、今思い返せば数多くの「理不尽」がつきものでした。その理不尽を避ける手段として（お陰様で）、必死に「察する力」を身につけてきたように感じます。現在、教育において上下関係や理不尽な対応は通用せず、対等な関係での丁寧な伝え方が求められます。しかし、対等な関係を築く為には必要な条件が存在すると私は思います。それは互いに敬意を持つこと、そして互いに感謝することです。敬意と感謝があつて初めて個と個が対等になれると思います。敬意と感謝の反対は

慣れであり、馴れ合いでは組織の成長は望めません。友達のようないな親子、同級生のような高校生、球児、上司に冗談を言う後輩、20年前ではゾツとするような表現ですが、敬意と感謝が備わつてさえいれば、今では理想的な表現とさえ感じます。教育に長けた人は「ありがとうございませう」の使用頻度が高く、その都度相手に好感と活力を与えます。対等な関係性を築き、より良いチーム構築に向けて重要なことは、互いに慣れることではなく、片意地を張ることでもなく、「ありがとう」を通して双方の「敬意と感謝する心」を育んでいくことだと感じています。

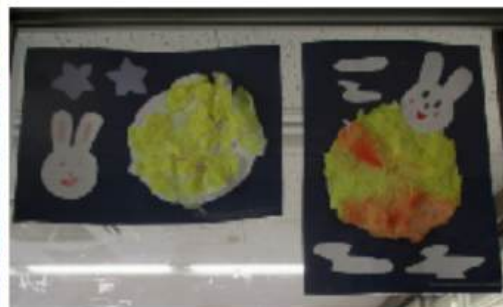
芸術クラブ

『絵手紙制作』

生活支援員 伊藤 愛理

8月は、絵手紙制作を行いました。絵手紙の定義はあるのか調べてみたのですが、「絵を自分で描くとともに相手に伝えたい言葉を添えるもの」、「技術

ではなく、飾らずに自分の味を表現すること」とありました。絵や言葉から伝わってくる、描いた人自身の人となりや温かみを、絵手紙では感じる事ができますよね。それがこの「飾らずに自分の味を表現すること」なのではないかと思っています。今回もそんな個性的で、とても味のある作品の数々を玄関に飾ることが出来ました。作品作りのポイント、は、割り箸の先に絵の具をつけてモチーフの輪郭を描くことです。ペンや筆では表せない、細かったり太かったり、かすれたりした線を描くことができます。もう一つは、クレヨンで色を塗ることです。色と色との混ざり合いを楽しんだり、塗りつぶして力強い色を出したりと、様々な表現で描くことができます。皆さんも、自分だけの絵手紙作りに挑戦してみてくださいいかがでしょうか?



9月スケジュール

02(火) 田中Dr.ケースカンファレンス
 05(金) 芸術クラブ
 07(日) 職員ソフトボール大会
 11(月) アンパ創作活動
 10(水) 3班レクレーション
 12(金) ゴールドクラブ
 13(土) 三気の里家族会
 17(水) 避難訓練
 18(木) 1班レクレーション・嘱託医来診
 19(金) BeTREEレクレーション

19(金) ドーナツ販売
 24(水) リハの日
 26(金) 産業医職場巡視

毎週月曜日 訪問理容サービス
 毎週水曜日 BeTREE役場販売
 BeTREE
 <営業時間>9:30~17:30



betreeJ14

8月30日に陣内食堂が行われました
 たくさんのご来場
 ありがとうございます

【食材提供】

砂野 光代様 (じゃがいも・ピーマン)

吉山 一男様 (オクラ)

坂本 美幸様 (人参)

渡邊 芳子様 (シユース)

山中 美智代様 (玉ねぎ・じゃがいも)

宮本 喜代美様 (玉ねぎ・かぼちゃ)

以下の物をフードバンクから頂きました。(生ドーナツ・カルゲンミニ・お茶・お米・たこ焼き粉)

【Vo】

岩下 彩奈様 酒井 煌晟様

渡辺 玲音様 田中 大智様

小川 結愛様

更生保護女性会の皆様



沢山のご厚意

ありがとうございます

ございます

【寄付】

松枝 英子様

三気の里家族会

【寄付物品】

横手 聡様

中嶋 久枝様

牛島 智子様

森川 琇介様

【後援会】

金森 保様

森川 マサミ様

東坂 富士代様

福永 敬子様

甲斐 賢二様

赤星 央子様

千田 英文様

佐藤 由美子様

編集後記

今年の夏は例年になく暑く、溶けてしまいそうになって、もしくは溶けているのではないかと感じていました。まだまだ暑い日は続きますが、皆様も体調等には気を付けてお過ごしください。

中村 圭助

